

## 要 旨

### 試験委託者

環境庁

### 表 題

BPMCのオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する繁殖阻害試験

### 試験番号

ET9801-3

### 試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」（1984年4月採択）の改訂版であるガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」（1997年4月提案）に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： BPMC
- 2) 暴露方法： 半止水式（週に3回、試験液の全量を交換）
- 3) 供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間： 21日間
- 5) 試験濃度： 対照区, 0.07, 0.15, 0.33, 0.73, 1.60, 3.52, 7.75, 17.05 および  
37.50  $\mu\text{g/L}$  (公比 2.2)
- 6) 試験液量： 1容器（連）につき 70～80 mL
- 7) 連数： 10容器（連）／濃度区
- 8) 供試生物数： 10頭／濃度区（1連につき1頭）
- 9) 試験温度： 20 $\pm$ 1 $^{\circ}\text{C}$
- 10) 照明： 16時間明／8時間暗
- 11) 被験物質の分析： HPLC法

## 結 果

### 1) 試験液中の被験物質濃度

0.07 および 0.33  $\mu\text{g/L}$  濃度区において設定値に対する割合が -20%を超えた為、次の実測値を用いた。

0.05, 0.14, 0.30, 0.72, 1.50, 3.25, 7.15, 16.06 および 36.59  $\mu\text{g/L}$

### 2) 21 日間の親ミジンコの半数致死濃度 (LC50)

5.90  $\mu\text{g/L}$  (95%信頼限界 : 2.64~19.73  $\mu\text{g/L}$ ) (Probit 法)

### 3) 21 日間の 50%繁殖阻害濃度 (EC50)

4.60  $\mu\text{g/L}$  (95%信頼限界 : 3.77~5.68  $\mu\text{g/L}$ ) (Probit 法)

### 4) 21 日間の最大無作用濃度 (NOEC) : 0.30 $\mu\text{g/L}$

### 5) 21 日間の最小作用濃度 (LOEC) : 0.72 $\mu\text{g/L}$

(上記濃度は、各影響濃度の算出に採用した実測値で表示した)